

学力・学習状況調査とは

【対象】

小学6年生、中学3年生
(国語・算数(数学))

【調査の目的】

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証・改善し、学校における児童生徒の学習指導の充実や改善などに役立てる。

【調査内容】

出題範囲は、全学年までの指導事項を原則としている。また、生活習慣や学習意欲、家庭学習などに関する質問紙調査も行われた。



	小学校		中学校	
	国語	県平均正答率と同程度	国語	県平均正答率と同程度
上回り	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること 		<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること 	
下回り	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと 		<ul style="list-style-type: none"> 具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること 	
	算数	県平均正答率と同程度	数学	県平均正答率と同程度
上回り	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を、□を用いた式に表すこと 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解すること 球の直径の長ささと立方体の1辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと 		<ul style="list-style-type: none"> 回転移動について理解すること ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶこと 	
下回り	<ul style="list-style-type: none"> 速さの意味について理解すること 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断すること 		<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること 	
まとめ	<p>当町の児童生徒は、友達と話し合う活動や協働的な活動により、自分の考えを見つめ直し、より良いものにしようとする力が育まれている。松田町立学校教職員は、今後も協働的な学びの場を設定し、児童生徒が学び合うことの良さを実感できる授業づくりとともに、基礎基本の定着ができるような授業を意識していく必要がある。</p>			

今年4月に実施した本調査の町立小・中学校の結果をまとめました。県公立学校の平均正答率を基準として、上回っているものと下回っているものを掲載しています(内容は抜粋)。

質問紙調査から

◆小学校

人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が全国平均を上回っている。

1日の動画視聴時間やゲームで遊ぶ時間が全国平均に比べて長い。

◆中学校

学校の授業時間以外で学習している時間が全国平均を上回っている。

1日のSNS使用時間やゲームで遊ぶ時間が全国平均よりも長い。

【まとめ】

児童生徒は、「自己肯定感」や「自己有用感」が高まっており、意欲的に学習や行事などの活動に取り組んでいる。しかし、SNSや動画視聴などの時間が長い。今後は情報モラルなどのリテラシーを学ぶ機会を作るなどの教育を展開していく必要がある。